

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2014.11

vol. 103

日本医療マネジメント学会 第13回九州・山口連合大会を終えて



国立病院機構 鹿児島医療センター病院長 花田 修一
（日本医療マネジメント学会 第13回九州・山口連合大会 大会長）

2014年9月26日（金）27日（土）の両日、「病院・病床機能の分化と地域医療連携」をメインテーマに、第13回九州・山口連合大会を、かごしま県民交流センターにおいて開催しました。今年は8月、9月と雨の多い日が続きましたが、幸い、学会当日は桜島の降灰はあったものの、天候には比較的恵まれ、九州・山口各県を中心に1300名を越える参加者がありました（今回は広島県からも演題発表をいただきました）。演題数は285題（口演257題、クリティカルパス展示28題）で、7会場に分かれて熱心な発表・討議が行われました。

特別講演1題、教育講演4題、シンポジウム4題、教育セミナー2題、フリートークセッション1題、医療安全講習会等により、今回のテーマに沿った講演やシンポジウムに加え、地域連携、医療安全、チーム医療、クリティカルパス、医科歯科連携のほか、診療記録の精度、看護現場でのパートナーシップ・ナーシング・システム®や災害時における感染症対策等についても講演をお願いすることができました。招待講演は志學館大学教授 原口 泉先生に「明治維新と医学」というテーマでお話いただきました。原口先生は薩摩の近世史を専門としておられ、NHKの明治維新関連の大河ドラマの時代考証も担当されており、いろんな話題で1時間があっという間に終わった感がありました。宮崎久義理事長には、基調講演で学会全体の動きだけでなく、九州・山口連合大会の歩みも説明頂き参加者一同本連合大会の意味について理解が深まったことと思います。

一般演題の会場でも熱心な討議が行われ、一部の会場では座ることができない参加者もみられました。主催者として申し訳ないことだったと思います。本学会は、鹿児島医療センター職員のみでなく、鹿児島県内の基幹病院の院長・看護部長に参加いただいて実行委員会を作り準備を致しました。学会開催にご協力いただいた全ての方々に感謝の気持ちを表したいと思います。

『病院・病床機能の分化と地域医療連携』というテーマにどれだけ迫ることができたか不安もありますが、残された時間は多くはありません。今回を契機にそれぞれの地域で検討が進むことを願いながら、開催のご報告と致します。



週末糖尿病療養 体験入院

平成24年1月に、「泊まって学ぼう糖尿病」をキャッチフレーズとして週末糖尿病療養体験入院がスタートしました。仕事や子育てなどで多忙なために、ウィークデイの長期入院が困難な患者様方に、週末の金～日曜日（2泊3日）あるいは土・日（1泊2日）を利用して、効率的に楽しく糖尿病を学んでいただく機会を提供することが目的です。

学習会の中心に据えているのは、近年糖尿病の療養支援ツールとして注目されている糖尿病カンパセーション・マップ（以下CM）です。

CMは、大きなスゴロクに似た「会話のための地図」を囲んで、糖尿病協会の認定を受けたファシリテーター（日本糖尿病療養指導士）の進行で、糖尿病の患者様とその家族がグループを作って話し合うための学習教材です。糖尿病に対する知識を学べるだけでなく、患者同士の情報交換の場となり、思いを語り合うことで、境遇を同じくする者同士が共感性を持つことが出来る、大変有用性の高いものです。（写真1）

栄養相談、薬・合併症・日常生活の注意点に関する当院オリジナルの教本を用いた知識提供（写真2）の他、2泊3日コースで参加された患者様にはフットケアを体験していただく等、療養生活をおくる上で重要なエッセンスを短期間にギュッと盛り込んでいます。具体的で、実施可能な目標を個別に立てる援助を行っていることも、参加された患者様にとっての重要なポイントになっているようです。

週末糖尿病療養体験入院に参加された患者様の退院6ヶ月後のHbA1cは、入院前の $8.4 \pm 0.4\%$ から $7.4 \pm 0.3\%$ へと有意に低下（ $p=0.032$ 、関連のある2群のT検定）して維持されていることが明らかになりました。それは入院後の糖尿病の自己管理に関する自己効力感が高まることと、糖尿病に対する負担感情が下がること及び各々の状態の維持に寄ることも判明しました（第51回日本糖尿病学会九州地方会で報告）。

患者様が糖尿病と向き合い、自身の問題点に気づき、より具体的で実施可能な独自の目標を立て、退院後に無理の無いより良い療養生活が送れるように、患者様から退院時にいただく「入院して良かった」という言葉を励みとして、今後もスタッフ一同懸命に支援して参りたいと考えております。

是非、皆様の施設の糖尿病療養支援ツールの選択肢として、週末糖尿病療養体験入院をご活用いただければ幸いです。

（文責：糖尿病内分泌科 医長 郡山 暢之）



平成 26 年度

がん看護エキスパートナース研修を開催して



平成 26 年 9 月 16 日から 25 日の 7 日間、がん看護経験 3 年以上の看護師を対象とした、がん看護エキスパートナース研修が開催されました。当研修の目的は、①地域がん診療連携拠点病院として、がん看護に必要な専門的知識と技術を統合し、理論に基づいた臨床実践ができる看護師を育成すること②看護臨床実践においてリーダーシップが発揮できる人材育成であり、院外 5 名、院内 5 名の研修生が参加しました。

研修内容は、がん疫学・病理学・腫瘍学・がん診断と治療などの専門領域に関する基本的な知識や化学療法看護、家族看護、放射線療法看護、緩和ケア・がん性疼痛マネジメントなどの看護ケアについて学び、日常の自分の看護を振り返るよい機会となったと感じています。そして、事例検討会では、看護倫理について考え、意見交換することができました。臨床心理士からコミュニケーションでのスキルをロールプレイで学び、そのことを病棟実習やカンファレンスで実践しました。

講師は、院内の医師や緩和ケア認定看護師・がん性疼痛看護認定看護師・がん化学療法看護認定看護師・がん放射線治療看護認定看護師・臨床心理士・MSW などを中心となり、最新の治療と専門性の高い看護やチーム医療・連携を学ぶことができました。そして、鹿児島大学医学部保健学科教授、堤由美子先生による「がん患者の心の軌跡に寄り添うケアを求めて」というテーマで特別講演を開催しました。講演では、事例を通して、必要な看護ケアについて考え、患者や家族の揺れる思いに寄り添うことの大切さを再認識しました。

研修生からは、「事例検討を通して多くのことを学べた。」「研修生や認定看護師からアドバイスをもらい、自己の看護を振り返る機会になった。」「今後自分が実践モデルとなれるよう頑張りたい。」「環境の異なる他施設を知る機会となり、自施設の実践につながる多くの気づきがあった。」などの意見をいただきました。研修生には、がんと向き合っている患者や家族が安心して入院や治療、自宅での生活を送ることができるよう、患者や家族にとって最善のケアを求めて専門的知識を活かした看護実践を期待しています。

研修会を通し、研修担当者・認定看護師も多くのことを学び自己研鑽の機会となったこと、貴重な出会いの中で看護を丁寧に振り返り考えることの楽しさを体験できたことを、研修生の皆様に感謝しています。今後も地域がん診療連携拠点病院として、がん看護の専門性の向上と人材育成に努めていきたいと考えています。最後に、平成 27 年度も多くの研修生の参加をお待ちしております。

(文責：がん化学療法看護認定看護師 諸留 えりか)

看護学校で公開講座を行いました

平成26年10月11日（木）に、学校近隣にお住まいの方を対象に公開講座を開催しました。60代から90代までの地域の方19名の参加がありました。参加者には毎年の公開講座を楽しみに欠かさず参加して下さる岩崎地区の方々に加えて、チラシを見て初めて参加された方も6名いました。

昨年は学生が行いましたが、今回は教員が「健康寿命をのばそう2014」というテーマのもと、「健康的な食事」、「健康チェック」「ロコモ体操」についての講座を行いました。



「健康的な食事」に関する説明では、パンフレットを熱心に見られ、「栄養バランスシートを使ってみたい」「これから食事に注意したい」という意見が聞かれました。骨密度や血圧測定などの健康チェックにはとても関心が高く、日頃から健康管理に取り組んでいることなどお話ししていただきました。後半ではロコモ体操やチューブ体操など体を動かすプログラムを行いました。健康意識が高く日頃から運動に取り組まれている方が多いためか積極的に取り組み、特にチューブを使う体操は大変好評でした。またロコモ体操は「川の流れるように」の歌に合わせた体操を準備したところ、多くの方が知っている歌だったので、ご自身でも歌いながら行っている方が多かったです。



参加された皆さんと一緒に過ごしお話を伺うことで私たちも元気をいただきました。これからも、地域の皆さんの健康に少しでも貢献できるような企画をしていきたいと思っております。

（文責：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校教員 首藤 眞奈美）



麻醉科・レジデント

岡田 尚子

10月より医療センター勤務となりました。約2年ほど前にも半年間勤務させていただき、今回で2回目の赴任となります。今まで積んできた経験を生かし、よりよい麻酔を提供できるよう頑張ります。医療センターにおいては、特に心臓麻酔が多く経験できる場であり、スキルアップを目指し日々努力を惜しまず勉強していきたいと思っております。

ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、役に立てるよう頑張りますので御指導御鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

新任紹介

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

（代）TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 蘭田・四丸・井手・濱口・森・鷺頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

